

北が飛翔体発射

迎撃措置取らず



2日に撮影された北朝鮮・舞水端里のミサイル発射施設の衛星写真。ミサイルとその影をはっきりと確認することはできない(デジタルグローブ・ISIS提供・共同)



北朝鮮は五日午前十一時半ごろ、日本海側の咸鏡北道舞水端里の発射施設から長距離弾道ミサイルとみられる飛翔体を発射した。日本政府はミサイルが東北地方上空を通過、一段目は秋田沖の日本海に、二段目は太平洋上に落下したと予測している。防衛省は迎撃措置を取らなかったと発表した。北朝鮮は事前通告しなかったと発表した。北朝鮮は事前通告しなかったと発表した。

河村建夫官房長官は五日昼の記者会見で、北朝鮮が発射した飛翔体の太平洋上での落下推定地点は事前に通告してきた予定海域より日本寄りだったと述べた。

政府は発射に対し「重大な挑発行為だ」と非難。「人工衛星」でも「弾道ミサイル計画に関連するすべての活動停止」を求めた国連安全保障理事会決議違反として、安保理協議に持ち込み、新決議採択を目指す。

日米両政府などは仮に人工衛星打ち上げ目的のロケットでも、米アラスカ州を射程に収めるとされる長距離弾道ミサイル「テポドン2号」と実質的に同じで安全保障上の脅威と分析。北朝鮮は核兵器保有も宣言、オバマ米政権と有利な交渉を進めるために米側をけん制する狙いもありそうだ。

北朝鮮は一月末ごろから、舞水端里にミサイルを積むコンテナのようなものを列車で運び込んだほか、多数のトラックや燃料輸送車などの活動を活発化させた。

三月十二日には国際海事機関(IMO)に四月四―八日に発射すると通告。三月二十五日には発射台に「テポドン2号」とみられるミサイルの設置が確認されるなど準備を進めていた。